

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 379 号	氏名	首 藤 実
学位審査委員		主 査	原 宜 興
		副 査	澤 瀬 隆
		副 査	渡 邊 郁 哉
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>接着性シーラーであるスーパーボンド根充シーラー(SBS)は樹脂含浸層を形成し良好な根管壁封鎖性が期待され、また、キャタリストが tri-n-butylborane であることから組織親和性が高いとされている。しかし、現在指定されている使用時と調整法では、流動性と操作性に欠点を有しており、術式の改善が必要である。本研究は、術式の改善による根尖封鎖性の向上を目指すものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>操作時間の改善は、JST 6522 7.2 に従い稠度を測定し判定した。SBS と GP ポイントとの反応は SEM 観察と EDX 分析によって解析した。SBS と GP ポイントを併用した良好な根管封鎖性のへ向けた術式の改善は、抜去歯を使った色素浸透試験によって詳細に検討を加えており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>冷凍ミキシングステーションの使用と冷蔵モノマーを6滴へ調整することで、操作時間の延長が可能となった。また、SBS の特徴として、GP ポイントとの界面で両成分の混和を生じることを証明できた。</p> <p>根管充填時の術式の改善として、根尖部において GP ポイントと根管壁を接触させないフローティング法を用いると根尖封鎖性が向上することが確認された。</p>			
<p>以上のように本論文は歯内療法学における臨床術式の改善に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。</p>			